

別紙様式 1

教科等研究会（中学校英語部会） 令和4年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

主体的に自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成を目指して
～バックワードデザインによる授業作りをとおして～

2 研究経過

第1回	第2回	第3回	第4回
期日 6月6日（月） 人数 27人 場所 益城中学校	期日 8月5日（金） 人数 27人 場所 益城中学校	期日 10月27日（木） 場所 嘉島中学校 授業者 田上裕登教諭	期日 1月26日（木） 場所 益城中学校 授業者 北里郁人教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

今年度は「主体的に自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成を目指して ～バックワードデザインによる授業作りをとおして～」という研究テーマのもと、研究、実践、授業改善等を行った。

① 第1回教科等研究会

組織作りを行い、学年部会で組織を構成し、研究授業の担当学年等を決めた。今年度から、県の英語暗唱大会が中止になったことを受けて、郡の暗唱大会も中止することを決定した。したがって、今年度からは研究活動の分担を変更し、「2学期研究授業」「3学期研究授業」「県版テスト作成委員」の3グループに学校別で分かれて担当するとともに、1年ごとにローテーションを行うことを確認した。

② 第2回教科等研究会

益城中学校で実施された。午前中は「熊本の学び ステップアップ研修」の一環として、小学校の外国語担当の先生と合同研修会を行い、より効果的な小中連携について話し合った。午後は各学年部会に分かれ、2学期以降に実施される授業研究会の指導案検討や、共通テスト対策問題の作成を行った。

今回、実に5年ぶりに小学校の先生方と意見を交わす機会を得て、とても有意義な研修になった。また、小学校の先生方には新型コロナウイルス感染予防の観点から zoom で参加していただいた。ブレイクアウトルームセッションを使うことにより、各中学校区に分かれて意見を出し合ったり、質疑を行ったりすることができた。

③ 第3回教科等研究会

令和3・4年度上益城郡教育委員会連絡協議会指定の嘉島中学校区「学力向上」研究指定事業研究発表会への参加をもって研修とした。嘉島中学校の田上裕登教諭が中学2年生のUnit4「Homestay in the United States」を題材として、助動詞 mustなどを扱った授業を行った。まとめの時間に、振り返りを英語で書かせるなど、とても参考になった授業であった。

④ 第4回教科等研究会

益城中学校の北里郁人教諭が、不定詞を扱った研究授業を行った（実践事例参照）。

(2) 成果と課題

○ バックワードデザインの策定について、「このプログラムが終わった時には英語でこんなことができるようになる」という明確なものをもって、毎時間の授業展開を意識するように実践を行うことができた。

○ 昨年まで懸案事項であった「小中連携」について、今年度は久しぶりに小学校外国語活動部会との合同夏季研修会が実施でき、小学校における英語教育の現状や、これから中学校英語担当教員が留意すべき点について学ぶことができた。来年度も小中合同の研修を行いたい。

● 県の学力調査を意識した評価問題の研究も行うために、今年度は年間で2回、評価問題を提出してもらい、アイデアを共有してもらった。次年度はさらに深化した取組を行っていきたい。

4 実践事例

(1) 学習構想案

中学校第1学年 外国語科 学習構想案

期日 令和5年1月26日（木）第5校時
場所 1年5組教室
指導者 教諭 北里 郁人

1 単元構想

単元名	「Unit9 “Think Globally, Act Locally”」 (東京書籍「NEW HORIZON English Course 1」 p.87-95.)		
単元の目標	(1) 不定詞(名詞的用法)や“look”を用いて、ALTや自分の友達に自分の行きたい国や地域、そこでしてみたいことなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを書くことができる。(知識及び技能) (2) 自分の行きたい国や地域、そこでしてみたいことなどについて、調べた情報を元に、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、書くことができる。(思考力・判断力・表現力等) (3) 自分の行きたい国や地域、そこでしてみたいことなどについて、調べた情報を元に事実や自分の考えを書こうとしている。(学びに向かう力、人間性等)		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	書くこと(ア) ①不定詞(名詞的用法)や“look”を用いた表現に関する文法事項を理解している。(知識) ②不定詞(名詞的用法)や“look”を用いた表現に関する文法事項を使用して、ALTや友達に自分の行きたい国や地域、そこでしてみたいことなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを書く技能を身に付けている。(技能)	書くこと(ア) ①ALTや友達に自分の行きたい国や地域、そこでしてみたいことなどについて知ってもらうために、調べた情報を元に、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて書いている。	書くこと(ア) ①ALTや友達に自分の行きたい国や地域、そこでしてみたいことなどについて知ってもらうために、調べた情報を元に、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて書こうとしている。
単元終了時の生徒の姿			
日本や外国の習慣や文化の違いについて理解しながら、自分の思いや考えをより知ってもらうために、ALTや友達に対し、自分の行きたい国や地域、そこでしてみたいことなどについて、読み手意識を持ちながら、不定詞(名詞的用法)などの新出文法事項を用いて、自分のことを書いている生徒。			
単元の中心的な学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
ALTの先生や友達に、自分の思いや考えを知ってもらうために、自分の行ってみたい国や地域、そこでしたいことについて、文の構成を考えながら分かりやすく英語で書いてみよう。		ALTや友達に自分のことを知ってもらうために、なぜ自分が選択した国や地域に行きたいのか読み手にとっても分かりやすく記述する工夫をすること。	

2 単元(題材)における指導計画と評価計画及び系統

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)	
中学校学習指導要領 2 内容 (知識及び技能) (1) 英語の特徴やきまりに関する事項 エ 文、文構造及び文法事項 (イ) 文構造 a [主語+動詞+補語]のうち、主語+be 動詞以外の動詞+名詞・形容詞 (ウ) 文法事項 g to 不定詞 (思考力、判断力、表現力等) (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 カ 書くこと (ア) 趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動	
教材・題材の価値	
本題材では、主人公のメグの、自分の目標とする人に関するスピーチや、メグや海斗が訪れた国際協力・交流イベントを舞台としたやり取りやそこで聞いたスピーチの内容が扱われている。本題材を通して、特にアフリカ地域の医療及び生活上の問題を知ることができるとともに、本題材で扱われているスピーチ文の構造は、生徒の自己表現活動につなげることができる。 メグが、自分の目標とする人に関するスピーチの場面では、不定詞の名詞的用法を用いて、自分のしたいことやする必要があると考えることを挙げている。また、国際協力・交流イベントを舞台とした場面では、〈What do you want to ~?〉を用いた疑問文が用いられ、相手が何をしたいのか尋ねる場面がある。題材を通して既習表現も含めて使用することで、自分の行きたい国や地域、そこでしてみたいこと等について、表現することができる。また、教科書本文の構造の工夫も読み取らせることで文章を構想する上で工夫すべき点に気づき、読み手意識を持って分かりやすく記述する手立てを講じることができる。	
本単元における系統(横軸を当該学年での他領域とのつながり、縦軸を他学年での同領域のつながり)	
【言語活動】	
1年生 Unit1 1学期 自己紹介として自分のことをALTに向けて伝える	1年生 Unit6 2学期 自分が紹介したい第3者をALTに向けて伝える
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 1年生 Unit 9 (本単元) 自分が行きたい場所とそこでしてみたいことをALTや友達に分かりやすく伝える。 </div> <div style="text-align: center; margin: 10px auto;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 2年生 Unit3 My Future Job ・自分が体験したことや学んだことについて、尋ねたり伝えたりすることができる。 </div>	
生徒の実態(単元の目標につながる学びの実態)	

■ 情意面						
	1.英語を聞くこと	2.英語の文章を読んでも理解すること	3.英語を音読すること	4.英語でやり取りすること	5.英語で発表すること	6.英語で書くこと
2学期	3.31	3.13	3.50	2.81	2.38	3.25
3学期	3.56	3.30	3.11	2.70	2.56	3.00

【資料1】 2学期と3学期を比較した各能力における意識の変容（5…得意～1…苦手）

1. 私はセブ島(Cebu)に住んでいる I (live) (in) (Cebu).		■ 既習事項の定着度 (資質・能力に関して) 学習した文法事項を用いたスピーキング活動は常時帯活動として取り入れているため、徐々に話す意欲や内容の質は向上してきた。しかし、2学期と3学期を比較し、得意だと感じることを示す数値に増減が見られることから、個人差が大きいことが考えられる。また、3人称単数主語の動詞の変化に関する学習前後で実施したアンケート結果からは、学習前と比較して正答者が少なくなっている項目があることから、新出文法事項に併せて既習事項の整理及び定着を継続して図る必要がある。具体的には動詞句一覧表を用いた帯活動や授業内でのClass room English等で日常的に既習事項に触れさせる必要がある。 (学びに関して) 「書くこと」については、疑問詞疑問文等、複雑な形の文法事項になると完全回答率が微減し、無回答率が微増するなど、上記の誤答を見ると既習事項の定着に至っていない生徒が存在する。学習に対する取り組み方は全体的にやや静かで黙々と取り組む生徒が多い反面、発音練習等では声が小さく、発音において不安を感じる生徒は多いと思われる。既習事項の定着を図り、学習上の不安や困り感を覚える生徒を支える手立てが必要であり、授業形態を工夫する必要がある。具体的には、【資料1】の通り、「英語を聞くこと」については、最も肯定的回答を得られており、「聞くこと」を起点として各観点の能力を伸ばさせようと考えている。
12人/17人(70%)	20人/28人(71%)	
2. タクヤはセブ島に住んでいる。 Takuya (lives) (in) (Cebu).		
10人/17人(58%)	9人/28人(32%)	
3. 私はブログ(a blog)を書きません(write). I (do) (not) (write) a blog.		
4人/17人(23%)	6人/28人(21%)	
4. タクヤさんはブログを書きません。 Takuya (does) (not) (write) a blog.		
3人/17人(17%)	10人/28人(35%)	
5. あなたはフィリピンの食べ物が好きですか? →はい、そうです。 (Do) (you) (like) Filipino food? →(Yes), (I) (do).		
8人/17人(47%)	14人/28人(50%)	
6. タクヤさんはフィリピンの食べ物が好きですか? →はい、そうです。 (Does) (Takuya) (like) Filipino food? →(Yes), he (does).		
3人/17人(17%)	12人/28人(42%)	

▲【資料2】 3人称単数の主語を用いたものと、それ以外の主語を用いた場合の各問の正答率の変化
(※左記数値は3人称単数主語の動詞の変化に関する学習前の正答率、右記は学習後の正答率)

3 研究主題との関連・指導に当たっての留意点

小中連携による主体的な学びを育む授業の創造

～確かな学びを保障する授業づくりの創造～

○益城町『英語指導イノベーションプラン』にある「音声から文字へ」の流れを軸に、小中連携で一貫した指導の流れを踏まえた実践を図る。小学校から慣れ親しんだ「聞く」、「話す」活動を基にし、英語音声に数多く触れることにより、英語に対し苦手意識を持つ生徒にも、英語での活動及び本文の理解に自信を持たせる工夫を行う。

○動詞句の効果的な活用

今年度より、益城町の小・中学校において一貫して動詞句を習得するためのカード(小学校50語、中学校ではさらに50語追加され合計100個)を毎時帯活動で活用している。小学校英語活動から、動詞句を継続的かつ積極的に活用を図るとともに、生徒の自己表現活動につながるよう取り組む。

○絵やイラストなどの視覚資料、ワークシートを活用し、個人練習やペア活動等学習形態を工夫し、継続的に取り組ませることによって既習事項及び新出事項の基礎的・基本的事項の定着を図る。

○学んだ文法事項等を定着させ、「書く」能力を身に付けさせるために、継続して書く練習に取り組ませる。

4 板書型学習指導案（本時の学習）

- (1) 目標 Unit9 Story2 の本文の内容を理解するために、メグとカイトの対話の内容を掴むことができる。
 (2) 展開

学習活動の流れ			
①動詞句一覧表を用いた帯活動	②「音声から文字へ」のプランに沿った展開 ・聞き取りから教科書本文の概要把握	③個から集団への理解 ・教科書本文の要点を捉えとともに、英文の発音等への意識付けを実施	④確認問題 ・T or F、Q & A（英問英答）を実施し、理解度を確認
学習過程における主な発問			
動詞句プリントを活用して、want to do の使い方を確認しよう。	・How many speakers are talking? ・Please listen carefully, and catch the words.	聞き取った内容を近くの人にシェアし、自分が聞き取った内容を再確認してみよう。どのように聞こえたかな。	きょうの教科書本文の概要を理解できているのか、T or F、Q & Aを使って確認してみよう。
板書案			
めあて（メグとカイト）のやり取りの内容を掴むことができる！ + 1 Rule A: (Say in Japanese) B: I want to ().		①(2) speakers ①what, エスニック、フード、レッツゴー、stage, listen, Me, too, Why? ②Today's Point! まとめ ・What does Meg want to do? (She wants to listen to the presentation.) ・What does Kaito want to do? (He wants to try some ethnic food.) ・Finally, Which do Meg and Kaito go first? (They go to listen to the presentation.)	Thursday, January 26 th Sunny, two fifteen p.m.
動詞句一覧表内の ピクチャーカード	動詞句一覧表内の ピクチャーカード		

本時の見どころ

視点3	リスニングをさせる際、なぜメモを取らせるのか等明確に活動の根拠等を伝える。
視点4	どのような内容を聞き取ったか、情報を収集した上で、本文の概要を推測し、把握する。
視点9	答え方が分からない問題等には、小出しにヒントを出すなどして手立てを実施する。

★サンタの授業上のポイント10

視点1	具体的に評価できる「行動目標」を設定している	視点6	相手意識を持ち、「分かりやすく伝える」ための「実践練習」をさせている
視点2	日常生活に関連させ、行動目標を理解させている	視点7	「キーワードや資料」を活用して、相手意識を持った発表を行わせている
視点3	「活動のねらい」「活動の手順」「活動の留意点」を明確に伝えている	視点8	個々の考えを、「本時の目標」に向かって、学び合いを高め合わせている
視点4	課題解決に向け、情報を収集・活用し、「自分の考え」を持たせる	視点9	「本時の学習が身についたか」を練習問題等で楽しく「挑戦」させている
視点5	「自分の考え」を「自分の言葉」で、資料やキーワードを使ってまとめさせている	視点10	「キーワード」活用して、本時の目標に沿った「まとめ」ができている